



藍の生葉で

青を染める

7月分

はじめに

さて、徳島では藍は順調に育っており、雨の合間を縫って収穫が始まっています。例年50、60cmに育つ頃には、隙間のないほど大きくなっています。収穫の際には、耕運機を改造した刈り機が、畝の上に刈った藍を並べて進んでいきます。その後を一抱えほどの束にまとめてくるのは、昔ながらの人手です。それをまとめて車に積み上げ、製藍所に運びこみます。それを機械にかけて切り、葉と茎をより分けるために大きな扇風機を回して葉を飛ばし、かき集めて広いセメンの広場で乾かします。途中で箒で掃いて、裏返しながらカラカラになるまで乾燥します。急に雨が降り出すと大変なので、乾燥機に入れて乾かすこともあります。大きなカマスにに入れて、9月まで保存するのです。製藍所の夏は機械化されたと言っても大変な時です。伝統の世界の重みを感じます。

我が家では、機械がありませんので鎌での手仕事です。2回目の収穫をする時の為に、早く大きくなるよう、茎を根から10cm程残して上を刈ります。刈った後、お札肥や害虫よけのオルトランを施します。草取りも欠かせません。刈った時に、茎の下のほうに赤い根が見えていませんか。それに土を寄せてやると、株が増えます。草丈が大きくなる原因のひとつに肥料喰いがありますので、化成系の肥料や硫安などをやります。ただし、藍に直接当たると枯れることもありますので、気をつけます。すくもに乾燥する時は、露の切れた午後に刈りますが、生葉で使う時は朝刈が適しています。一輪車に乗せて我が家に運び、乾かないうちに葉をちぎります。沈殿藍をつくる時も、朝に刈ります。大量に藍を植えた方は、一番刈りの藍葉を乾燥させてすくもを作ることにも出来ます。私は大半を沈殿藍にしています。沈殿藍については前回ご紹介しました。

5月にお送りしたリュウキュウ藍も、植えかえると大きく育ちます。ただし、日照りの強い畑に植えると葉がちぢれてきます。梅雨が明けると寒冷紗等で日陰を作ってください。育ったら大きな葉から千切って使います。草丈が大きくなれば、茎

を切ってさし木をし、たくさん葉を殖やしてください。

この藍は、ジュースにするとタデ藍より緑がかった色になります。水に2, 3日浸けてそのまま染めたり、沈殿藍を作ったり、また後で紹介します紫の染めに使うのに適しています。

タデ藍の苗の世話

植付けをしてから藍の根の両側に寄せ土をします。今まで低かった根の回りを高くしていきます。2回に分けて10cm程の高さの畝に寄せます。プランターの場合は土を入れてやります。日照りの時は水をやりますが、葉にかけるのではなく根元に土をかけます。大きくなると肥料も与えます。野菜用の肥料を使用するのですが根元の近くに置きます。ただし、藍に直接接触らないよう注意します。

また梅雨に入ると水を吸って見る見るうちに50～60cmくらいに育ちます。その間、草取りや虫退治の作業が待っています。我が家でも草取りに大わらわです。きられや根きり虫などは野菜用の薬剤を使用します。散布については添付の注意を守って作業をしましょう。無農薬を通すならば、1匹1匹取り除いてください。ニンクや辛子の煮出し液を酢酸でのぼして与えるとよいようです。

藍の刈り取り

梅雨が終わる頃、藍は50～60cmになり、緑色を増してびっしりと敷き詰めたように大きくなります。晴れた日に朝露が残っているときに藍を刈ります。暖かい地方では6月終わりに刈り取りの時期を迎えます。北の地方では1～2ヶ月くらい差があると思いますので、藍の成長を見て刈る時期を決めてください。



絵①

藍は土から10～15cmほどの葉の少ないところを残して刈ります。これは2回目の収穫を早めるために置きます。刈り取った茎からなるべく早く葉を取ります。絵①のように片手で上のほうを持ち、もう一方の手で下の方にしごくようにすると早く葉が取れます。集めた葉はさっと洗います。

※公開はここまでです。